

教職論 (Theory of Teachers Education)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
1年
2単位 前期集中
その他
小林 淳一

〔目的〕

教職に就くにあたっての基礎科目であり、講義の目的は次の4点である。①配布資料を基に各時間における内容を理解する。②ペアワーク、グループワークにより、学校教育現場における具体的な援用方法を考察する。③プレゼンテーションにより意見交換を図る。④シャトルカードに講義全体の感想をまとめ、知識の定着化を目指す。

〔到達目標〕

わが国の教職に関わる歴史的変遷を理解するとともに、教育現場の現代的な実態把握、さらには教師の役割と意義、資質能力や職務内容等の専門性を学ぶことを通して、学校教育分野における基礎的な知識・技能を多角的・多層的な見地から修得することが本授業の到達目標である。また、時間外学修を促進し、教職課程履修における主体的な学習者になり、適性吟味・進路選択に資する基礎素養を培うことを意図する。

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 教職の使命と役割・教職における基本的理解
学校教員の社会的使命と役割を理解するとともに、レディネスとして15回の授業計画および評価方法、課題の内容について把握する。
- 第 2 回 学校・教員免許の種類と特質、子どもの発達段階による学校や教員の資質と役割
教員免許を取得するまでの道筋と、免許の種類と法的拘束力を学ぶ。また、学校種による教師役割の異同について理解する。
- 第 3 回 幼児教育・初等教育・中等教育・高等教育の役割と実態
いわゆる「一条校」の役割と、各学校で展開される教育活動の実態、および今後の展望について学修する。
- 第 4 回 学校教育と生涯学習の連動性
生涯にわたり学び続ける学習者になるために、生涯学習の理念と実態を理解し、学校教育との連動性について考究する。
- 第 5 回 教育法規と教員の職務内容及び服務上の義務
教員の職務内容に関し、特に法規的観点から学ぶ。児童生徒の個人情報取り扱いや著作権、著作隣接権と学校教育について理解する。
- 第 6 回 地方行政、教育委員会制度と学校
教員採用試験を含む地方行政とその特色、学校および教員のあり方について理解する。
- 第 7 回 学習指導要領と今日に至るまでの日本の教育の歴史の変遷

戦後の学校教育の変遷と、今後と展望について学修指導要領の改訂を手掛かりに考究する。

- 第 8 回 教員の職業的社会化と職能発達－協働性と組織化を含む－
職業的社会化のメカニズムを社会学の視点から学ぶとともに、職能発達・職能成長の様相を学校教育学の視点から考究する。
- 第 9 回 教員の多忙感とメンタルヘルス及び他職種との比較
バーンアウト、早期バーンアウト、およびリアリティショックに関し、教職の視点と具体例から考察し、ストレス耐性の強い教師になるための方法について考える。
- 第 10 回 「チーム学校」のあり方と展望
学校と地域社会の連携による教育システムについて理解する。
- 第 11 回 教職観の変遷と教員の今日的な資質能力
教育における不易と流行を見極め、今日的な学校現場で要求される資質能力について、実践場面を踏まえて学修する。
- 第 12 回 教職における各種研修の連動性と意義・今後の展望
初任者研修、各年度ごとの研修および教員免許更新講習について理解し、そこで修得すべき資質能力について考究する。
- 第 13 回 課外活動・地域連携における教員の役割と連携体制－時間外業務・体罰問題を含む－
部活動、地域連携活動における教師の役割と職務範囲について学ぶ。
- 第 14 回 防災教育と減災教育
東日本大震災、能登地震において、学校や教員が実際に担った役割を事例とし、教師として危機管理にどう対応するかを理解する。
- 第 15 回 能動的学修を促進し、生涯に亘り学び続ける教育者になるために
学校教育における理論と実践の往還を適切に捉える視点と方法について学修する。

〔成績評価の方法〕

毎時の課題及びプレゼンテーション (40%)、期末試験 (60%) で評価。

〔予習・復習に関する指示〕

毎時間の終わりに、次時までの予習と復習を口頭で説明します。

〔教科書・参考書〕

(教材) 資料を配布する。
(参考書) 『これからの学校教育を担う教師を目指す』日本学校教育学会編 学事出版、2016。

〔その他履修上の注意事項〕

教職志望意識の有無に関わらず、自分自身が教壇に立つことを想定して主体的に受講すること。

〔オフィスアワーの設定〕

随時。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教育実習前に履修しておくことを推奨する。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員免許取得に係る教職必修科目です。

〔キーワード〕

教員養成、理論と実践の往還

教育原理 (Principle of Education)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
1年
2単位 後期
火曜 3限
石倉 瑞恵

〔目的〕

教育思想、近代学校成立の歴史、様々な教育事例を学び、対象としての子どもを捉える視点、学校教育について考える基礎的な思考力を身につける。また、多様な教育の可能性と教育者の姿に気づき、現在の学校教育から問題を見出したり、学校教育の更なる発展について考えたりする力を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 教育思想家が提示する子ども像、教育の目的と方法について、思想的相違と共通点を見出しながら説明することができる。
- 2 近代学校の成り立ち、近代学校における教育の目的を理解し、日本の学校教育がどのような経緯を経て現在の形に至ったのかについて説明することができる。
- 3 学校で扱う教育知とは何かについて理解し、新教育における教育知の概念と教育の方法について学ぶ。旧教育と新教育の相違、新教育の教育方法について説明することができる。
- 4 前衛的新教育の実際について調べ、その現代的意義について説明することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 子どもとは
子どもは愛情をもって育まれるべき対象である。ところが、子どもに独自の価値を認めず「劣った大人」と考えられてきた時代は長い。子ども観の転機、子どもを可能性ととらえるようになったターニングポイントとその後の教育思想の基盤となる子ども観について学習しよう。
- 第 2 回 子ども中心視座への序章：コメニウスの教育学
子ども観の転機が訪れても教育には子どもの視点が欠如していた。教育学の祖コメニウスは、学校、教授法などに関して、現代に通じる斬新なアイデアを提唱した。コメニウスの教授法、そして教授法の要となる感覚に訴える教育、そのための教材について学び、教育方法の基礎を身につけよう。
- 第 3 回 ルソーの子ども観と教育論：自然を考える
革命前夜のフランスで活躍したルソー、その著作に『社会契約論』があることは周知である。彼

は、偉大なる教育思想家である。大人は悪そのものである、大人に染まらない子どもらしい子どもを育てようとして執筆した『エミール』を中心に、疲弊した社会の中で誰もが幸福になる教育のあり方について考えてみよう。

- 第 4 回 ペスタロッチの子ども観と教育論：心と体と知
子どもを鞭打つ教育が主流であった時代に「居間の教育」を提唱したペスタロッチ。彼は、教育思想家であり教育実践家である。彼の教育方法論は、日本の大正期の新教育、アメリカ新教育の先駆者デューイにも影響を及ぼした。今、アクティブ・ラーニングが脚光を浴びているが、何も新しいことではない。それは、ペスタロッチが提唱した教育方法、教育の基本中の基本である。さあ、教育方法について思考を深めよう。
- 第 5 回 西欧における近代学校の登場：一斉教授の始まり
我々になじみの深い一斉教授、机の並びと先生の立ち位置、この教育スタイルが「発明」されたのは18世紀のイギリス。あまりにも画期的で「風変わり」とも評されたほどであった。一斉教授の機能は何か？なぜ多くの子どもを一つの部屋に収めて教育する必要があったのか。そして、その限界は？一斉教授について学び、教育空間の重要性について知ろう。
- 第 6 回 日本の学校の成立：自由教育思想から教育勅語へ
明治期の日本、近代教育が導入され、ヨーロッパ教育思想に根付いた教育の理念がうたわれた。しかしいくばくもなく皇国思想に基づく「教育勅語」が下賜され、中央集権的な教育がとってかわる。教育勅語下での教育内容、教科書はどのようなものであったかを学び、当時の学校教育が日本人の精神性にどこまで深く入り込んだのか、考えてみよう。
- 第 7 回 大正デモクラシーの教育思想：エレン・ケイ
国家人材育成を掲げた中央集権的教育に雪解けが訪れる。大正期、戦勝国としてのゆとりからデモクラシーの風潮が容認されるようになったからだ。当時の日本人教育者、思想家の中で熱心に読まれたエレン・ケイの思想を理解し、日本の文脈の中で展開した「新教育」の意義を考えてみよう。
- 第 8 回 大正デモクラシーと教育：児童文化と学級文化
大正年間には、現代の日本の教育を支える素晴らしい文化が誕生した。子どもの世界を再現した児童文化、童謡や童話、雑誌は、それとは知らずに現代人が親しんでいるものである。大正期児童文化がいかにか子どもの世界を表象しているか分析してみよう。また、現在に通じるクラスルーム、学級文化も児童文化の萌芽とともに花開く、その背景を理解しよう。
- 第 9 回 戦前の教育・戦後教育改革
日本における第一の教育改革は、明治期の近代学校導入期。寺子屋から小学校になったという仰天の改革期だ。第二の教育改革期が戦後の民主化改

革である。多くの子どもが犠牲になる思想性を植えつけた戦時下の教育について、教育に携わる者はその痛みまで理解しなければならない。そして、戦前から戦後にかけて「よい子」像はどう変わったのか、学校教育はどう変わったのか理解しよう。

第 10 回 日本の教育の全体像

今まで君たちは学校教育を当事者として経験してきた。当事者解釈から卒業し、日本の学校教育を俯瞰的に理解しよう。小学校から大学までの学校種別、学校に関する規定を定める数々の教育法規、教育行政（文部科学省と教育委員会の関係性は！？）、地方分権の意義、教員の教育権等。日本における近代学校成立の軌跡をじっくりと学んだ今だからこそ理解できる事象をとことん吸収しよう。

第 11 回 日本の教育：教育基本法

戦後制定された教育基本法は、民主国家の教育理念を謡う「前文」をもつ格式高い法律である。その教育基本法が平成18年に改正された。前文を筆頭に条文構成も大幅に改定された。そこには戦後60年間の日本の教育発展を読み解くことができる。さて、新しく加わった条文について、なぜその必要性があるのか考えてみよう。

第 12 回 学校における教育知とは

今や多くの知識があふれている。学校では何を教えるのか。教育知は、増殖する知識の中からとある基準に基づいて選択されているものである。その基準を学び、我々の経験から、学校教育で扱われなくなった知識、新しく扱われるようになった知識をとりあげ、その背景を考えてみよう。なぜ算数の教科書で足したり引いたりするのはクッキーとキャンディーなのか、その答えもおのずと見えてくる。

第 13 回 デューイ・スクール：経験と知一

アメリカ新教育の先駆者デューイの教育思想、教育実践から「新教育」を理解する。「社会的資質と個性の開花」、「学校は小さな社会」、「仕事」、「教育とは終わりなき成長」などデューイをとり巻くキーワードを理解しよう。「生きる力」の育成、学習意欲を育むこと、学習の仕方を学ぶことが課題とされる現代の学校教育におけるデューイの実践の意義を学ぼう。

第 14 回 シュタイナー・スクール

シュタイナーが開拓した人智学における教育の目的と方法を理解しよう。シュタイナー・スクールの特徴、教育空間を自然物で構成し、クレヨンでノートを書いて感性を刺激する教育環境、担任持ち上がり制を導入し、試験も成績もないというストレスを排した教育方針、忘れることを前提とした教育など、風変りな教育方法の論理的背景を理解しよう。

第 15 回 新教育の前衛：サステナビリティを育む学校

新教育は現代においてどのような展開を遂げているのか、事例を手掛かりに理解しよう。教育先進国においては、予測不能な未来に備えて価値を創造する人材を育成することが学校教育の目的として据えられている。わが国においてもしかりである。たとえば、インドネシアのグリーン・スクールは、サステナビリティを育む学校環境づくり、教育方法を模索し斬新な学校教育を提供している。その意義を考え、わが国の教育改善へのヒントを導き出そう。

第 16 回 なし

〔成績評価の方法〕

最終レポート60%、小レポート40%

〔予習・復習に関する指示〕

①あらかじめ予習の意を込めて提起する教育学的問いについて、一週間かけて自らの答えを導き出さない。次週、指名されたら、瞬時に解答しなければならない。

②各回学んだことの要旨を文章化する。セクション終了時にレポートを課すが、締め切りまでは一週間。毎回の復習がなければレポートに対応できないであろう。

〔教科書・参考書〕

(教科書)

適宜資料を配布する。

(参考書)

森良和『歴史のなかの子どもたち』学文社

柳治男『〈学級〉の歴史学』講談社選書メチエ

増田幸弘『プラハのシュタイナー学校』白水社

ルソー、今野一雄『エミール』岩波文庫

コメニウス、井ノ口淳三『世界図絵』平凡社

〔その他履修上の注意事項〕

教育とは何か、人間は何を学んでいくのか等の問いかけについて、授業で得た知見に基づいて思考し、道筋を立てて文章で表現できるようになることを求める。その前段階として、授業中に口頭で積極的に表現することを要求する。最終的に説得力ある文章で表現できるようになることを意識して各自復習する必要がある。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

本講義は教職課程入門である。したがって、教員免許取得が定かではない学生も受講してよい。しかし、あわよくば教員免許でもとっておこうという軽い気持ちでは、受講は続かないであろう。むしろ、人間について学びたい、今まで受けてきた学校教育を客観的に見つめてみたいという熱い思いをもち、教員免許とは関係なく受講する者のほうが受講に適している。なお、教員免許取得の有無にかかわらず受講できる教育学関係の講義は教育原理までである。

〔その他〕

教育学的問いとは何か。教育は人と社会の営みの基本であり、文明の発生と同時に、衣食住の中で行われてきた現象である。したがって、教育学的問いの範囲は広い。「学問は人間の生活を豊かにしたか、あるいは否か」この問いへの自分なりの答えを熟成させてみたまえ。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

教育思想、子ども、教育方法、近代学校、教育知、新教育

教育心理学（Educational Psychology）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
1年
2単位 後期
木曜1限
澤田 忠幸

〔目的〕

教育における発達と学習に関して、心理学的な観点から理解できるようになる。主に発達や知識・動機などを中心とする学習者の心理学的側面の理解と、これをふまえて、有効な学習を導く教授学習方法と教育評価について理解することをめざす。

〔到達目標〕

1. 発達と学習の心理に関する基本的現象について説明することができる。
2. 学習活動を支える認知機能や動機づけ要因について説明することができる。
3. さまざまな教授学習方法と教育評価の方法を理解し、授業計画や評価表を作成することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達と学習：教員の職務との関わりから
- 第 2 回 発達の理論（1）
発達の時期区分と人間の心身の発達の特徴
- 第 3 回 発達の理論（2）
ピアジェ、エリクソン等の代表的な発達の理論
- 第 4 回 発達領域のまとめ
①児童期・青年期の理解、②発達障がいの理解
- 第 5 回 学力をとらえる視点
- 第 6 回 学習と記憶
- 第 7 回 学習意欲の理論
- 第 8 回 習得・活用・探求の授業デザイン
- 第 9 回 批判的思考（クリティカルシンキング）力と態度を育てる
- 第 10 回 協同学習の理論と実践（1）
- 第 11 回 協同学習の理論と実践（2）
- 第 12 回 教育評価（1）学力評価の様々な方法
- 第 13 回 教育評価（2）教育目標と学力評価
- 第 14 回 授業教材を作ろう
- 第 15 回 試験や評価方法を考えよう

〔成績評価の方法〕

授業でのワークシート兼ミニレポート（15 枚）60%。期末試験（ミニ学習ポートフォリオ）40%。
詳細は第1回の授業で説明する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書）教科書は使用しない。授業では資料を配付する。
（参考書）

- 藤村宣之（2009）「発達心理学」ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05464-0
市川伸一（1995）「学習と教育の心理学」岩波書店 ISBN4-003923-7
楠見孝・子安増生・道田泰司（2011）「批判的思考力を育む」有斐閣 ISBN978-4-641-17380-4
杉江修治（2011）「協同学習入門」ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0573-7
中谷素之・伊藤崇達（2013）「ピア・ラーニング：学びあいの心理学」金子書房 ISBN978-4-7608-3256-9
田中耕治（2005）「よくわかる教育評価」ミネルヴァ書房 ISBN4-623-04333-9

〔その他履修上の注意事項〕

- ・教科書を使用せず担当者独自の内容構成の講義を行うので、欠席せず全授業を受講してほしい。
- ・授業ではグループワークを取り入れる予定である。積極的に参加してほしい。
- ・教養教育科目「心理学」（前期）を受講していることが望ましい。

〔オフィスアワーの設定〕

授業後および研究室で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育の基礎的理解に関する科目として設定された「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」に関する科目に対応する）。

〔キーワード〕

教育制度論（Educational System）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 後期
火曜4限 火曜5限
石倉 瑞恵

〔目的〕

教育は社会の産物である。社会の特性、社会が求める人間像に基づいて教育制度が生まれる。時代や社会が変化すれば教育も変わる。「教育制度論」では、様々な国・地域と時間軸の中を移動し、多様な教育の姿、教育の社会的機能、そして教育の社会変革力について学ぶ。「社会」というマクロなフィルターを通して教育や教育制度を認識し、教育のさらなる可能性について斬新なアイデアを構築する資質を身につけることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 近代学校形成までのプロセスを理解し、学校教育の発展について時代性や思想家の考えを踏まえて説明することができる

できる。

2 日本の社会的特質と教育の特質の相関について、データに基づいた分析ができる。

3 欧米、アジアの教育制度の特色を日本との比較で理解し、説明することができる。

4 外国教育制度調査のための初歩的な視点と方法を身につける。外国の教育に関する情報を収集し、テーマを定めてまとめることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

第 1 回 自分の経験に基づいて日本の教育の特質をとらえよう

日本の学校教育、日本全土で「同じこと」は何だろう。日本の学校教育に特有で、他国の学校教育にはないこと、日本の学校教育にはないが、他国にあることは何だろう。君たちの経験から、教育制度理解への足掛かりを作ろう！

第 2 回 日本の教育を形づくる社会的背景

戦後日本はアメリカをモデルとして学校教育を再建した。戦前の学校（旧制中学校や高等女学校）は戦後どうなった？国立大学はどうして一府県に一つは必ずあるのか？短期大学はなぜできた？高等専門学校はなぜ必要だったのか？こんな、日本の学校教育のなどを戦後民主主義、高度経済成長など、社会変化から答えてみよう。

第 3 回 教育制度研究へのファーストステップ：数字で分析、日本の教育

文部科学統計要覧を読解しよう。それは、数字・数字・数字・・・の世界。小学校児童数の変化、高校生徒数の変化、大学学部と学生数の変化等々、戦後から現在までの統計を見て、数字の中から学校教育の変化を見つけよう。そして、その社会的背景を考えてみよう。

第 4 回 教育学的時間旅行 1：学校の始まりは古代ギリシャ？

学問の基礎「哲学」は古代ギリシャで生まれた。どんな議論をしていたのか。どこで議論していたのか。アテネの学校は音楽と体育だけだった！？プラトンの描いた学校教育は50歳まで続く？博物館と図書館の起源はエジプト！？現在の学問、学校の祖先が、紀元前に地中海沿岸で誕生していたことを確かめる時間旅行に出かけよう。

第 5 回 教育学的時間旅行 2：大学の発生：学問に国境なし

君たちが今いる「大学」について学ぼう。「学校」の中で一番最初に制度化したのが大学だ。（学校は、小学校からできたわけではないんだ。）その成立は中世にさかのぼる。しかも、大学は初めから国際機関だった。パリ、モンブリエ、サレルノ、プラハ、中世大学の旅に出発だ。今の教育制度に残してくれたものを見つけに行こう。

第 6 回 教育学的時間旅行 3：義務教育が必要になった！？

君たちが当たり前のように通った義務教育。なぜ義務教育が必要なのか考えたことはあるかな？その理由は一律ではない。日本の義務教育の誕生は19世紀明治時代、欧州では18世紀初頭に成立しているところもある。もっと早くに義務教育が必要だと言った人もいる。それぞれの時代、なぜ義務教育が必要だったのか、探求の旅に出発だ。

第 7 回 教育学的時間旅行 4：近代国家の成立・教育は我が道を行く

現在の学校制度は国ごとに著しく違う。小学校が4年間だったり、小学校卒業試験があったり、小中一貫だったり・・・、近代国家が成立すると、その国の政治・社会的特質に応じた独自の学校制度が設けられるようになる。18世紀後期から19世紀にかけて、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツはどのような道を選んだのか！？

第 8 回 フランスの教育：フランス革命の精神・平等は今なお

1978年フランス革命後に掲げられたフランスの精神性「自由・平等・博愛」は、今なお学校教育理念の中心にある。コンドルセが主張した学校における「自由」とは学校教育が徳育を扱わないということの意味している。また、「機会の平等」は、均一な教育内容の提供として解釈されている。しかし、「自由」と「平等」はフランスで大きな学校問題を引き起こしている。それはなぜか！？

第 9 回 ドイツの教育制度：職業は職業、大学は大学

日本では、大学で就職活動をして就職するのが標準的進路である。しかし、ドイツは違う。職業教育と大学教育は別の役割を果たしている。そして、職業教育が非常に高いステータスをもっている。子どもたちは11歳でどんな職業に就くかを決定、職業教育への道、大学教育への道へとそれぞれ進む。人生における学びの時期、学びの場も人それぞれ違う！？

第 10 回 アメリカの教育：公が保障する多様な教育

戦後、日本はアメリカの教育制度をモデルとして再建した。学校系統図を見ると日本とアメリカの教育制度はとても似ている。違いは何か？それは、文化・社会の相違に起因する。アメリカは多文化社会である。ゆえに「公」が保障する教育のあり方は日本より多様である。さあ、日本との違いを探してみよう！

第 11 回 多言語国家ベルギーの教育：君ならどのアンクルから切り取る？

プレゼンテーションに向けてのexercise。ベルギーの教育を扱うとしたら、どの視点からアプローチするか？どのような枠組みで切り取るか？まずは、ベルギーの学校見学だ（残念ながらビデオで）。視察の機会はたった一回。メモを取りながら、枠組みを考えよう。簡易ポスターを作成して、発表だ。さあ、sight seeing busに乗り遅れるな！

第 12 回 アジアの教育：日本を模倣し日本を超えて
かつて日本の教育はアジアのモデルであった。しかし、2000年に入り、pisa調査では、シンガポールや韓国など、日本を追い越すアジアの国が現れた！？お隣韓国、どんな教育をしているのか？似ているようで似ていない、かつての日本を彷彿させる教育。そして、シンガポールの受験社会とは、いったいいかに！？

第 13 回 プレゼンテーションの予備プレゼン
次回に迫ったプレゼンテーション、今回はその予備プレゼンである。小グループで発表しあい、お互いに指摘しあおう。指摘されたことは、直ちに検討。さらに、ポスターに表記すること、口頭で説明することを整理しよう。プレゼンは100学んで1発表の心意気が重要だ。時間内にポスターをバージョンアップさせよう。

第 14 回 プレゼンテーション「外国の教育を調べて発表しよう」
2回連続のプレゼンテーション。ポスター発表は前半回と後半回に分けて実施する。自分の発表の回には、何を質問されたのか、どのような指摘を受けたのかをメモしておこう。オーディエンスに回った回には、質問や指摘をするのみならず、新規な視点、解釈を学び、それをメモしておこう。

第 15 回 プレゼンテーション「外国の教育を調べて発表しよう」
2回連続のプレゼンテーション。第14回に同じ。さらに、最後にはプレゼンテーションの振り返りをまとめよう。

〔成績評価の方法〕

プレゼンテーション60%、中間テスト40%（授業回のいずれかで、知識定着確認テストを実施）

教職課程の規範として、欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

① 予習として毎回教科書1章分があてがわれるので、その章について簡易的な説明ができるようになるまで理解を深めておく。教科書は基本的事項しか扱っていない。講義では、講義回タイトルに特化したプラスアルファを提供するので、教科書を理解していないと授業は理解できない。

② 14回目15回目プレゼンテーション「外国の教育を調べて発表しよう」に向けて、自分の関心がある国を見つけ、その国の社会・政治等に関する学習に始まり、教育全般について学び、ターゲットをどこに定めるか、に至るまで、十分に時間をかけて検討しておく。これは、各自の自主学習として行うべきことである。毎回の授業は、プレゼンテーションの枠組みや視点を考える上でのヒントに満ち溢れている。毎回の授業を振り返り、量質ともに適切なプレゼンテーションを準備しよう。

〔教科書・参考書〕

（教科書）

広岡義之『教育の制度と歴史』ミネルヴァ書房

（参考書）

プラトン、藤沢令夫 訳『国家』岩波文庫

コメニウス、鈴木秀勇 訳『大教授学』明治図書

コンドルセ、阪上孝 訳『フランス革命期の公教育論』岩波文庫

二宮皓『世界の学校』学事出版

文部科学省『諸外国の初等中等教育』明石書店

横尾壮英『中世大学都市への旅』朝日選書

浅野啓子／佐久間弘展『教育の社会史』和泉書館

〔その他履修上の注意事項〕

本講義は、教育を経営する教師としての資質をはぐくむことを目的としている。将来学校教育を担う者としての自覚をもち、教育についてより多くを学ぼうとする意欲と態度で授業に臨まなければならない。

授業内容を確実に理解するのみならず、日頃から、ニュースや新聞を視聴し、教育に関することや世界情勢に関心を向けておくことが必要である。最新の教育問題について自分なりに多角的に批判・検討するトレーニングをしておくことが望ましい。

調査、議論、プレゼンテーションの多い授業である。積極的に参加しよう。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職課程関連科目の中では発展レベルに相当する。教育原理、教育課程論を修得していないと、到達目標を達成することはできない。したがって、この2科目を履修し終えた者のみが受講することができる。

〔その他〕

本講義では日本、欧米の教育を扱う。しかし、世界を見渡せば、いまだに学校教育が普及していない国も多い。その問題は教育開発として扱われる。なぜ学校がないのか、学校ができたならその国はどう変わるのか、どのような支援の方法があるのか、等、本授業のさらなる発展段階として、ぜひ考えてほしい。もちろん、プレゼンテーションにおいて、そのような国・教育開発を取り扱ってもよい。

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引別表参照）

〔キーワード〕

近代学校、教育と社会、データ分析、欧米の教育制度、比較教育、外国教育調査

教育課程論（Theory of Curriculum）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年

2単位 前期

金曜1限

石倉 瑞恵 辻 直人

〔目的〕

教育課程編成の多様性と中心となる理論について理解し、新しい時代の教育課程を計画する基盤としての知識、思考力を身につける。さらに、新しい時代の教育課程は、子どもが未知の状況に対応しつつ「何かができる」ようになることを目標として編成されなければならない。その目標に到達するために教師として身につけるべく教育方法、評価

方法について学ぶ。最終的に、学校教育を経営的視点で捉える力、すなわち、マクロな視点で現行の教育課程を見つめ、社会的需要を察知し、未来を予測した上で教育実践を計画する力を身につける。

〔到達目標〕

1 学習指導要領の変遷について理解し、それぞれの学習指導要領の下、どのような教育課程が編成されたか、その結果どのような問題が指摘されたかについて説明することができる。

2 新学習指導要領の重点領域を踏まえて、「理科」教育の目標は何か、教育方法・内容にはどのような工夫が必要かについて理解し、説明することができる。

3 多様な教育実践を学び、教育課程編成の手法について理解し、説明することができる。

4 教育評価に関する考え方、方法を学ぶ。新しい評価方法を理科教育で活用する事例を自ら考えることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

第 1 回 教育課程とは

教育課程の定義、教育課程の法的根拠、学習指導要領の構成と内容、教育課程をとらえる視点、すなわち、経験カリキュラムと教科カリキュラム、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム等、第2回目以降の学習に必要な基本的知識について学習する。

第 2 回 学習指導要領の変遷（1）：経験カリキュラム

昭和22年、26年学習指導要領は、デューイの影響を強く受け、経験カリキュラムの色彩が強かった。経験カリキュラムの下での教科の扱い、推奨された教育方法である単元学習とコアカリキュラムについて学ぶ。経験学習と系統学習のメリットとデメリットについて考えてみよう。

第 3 回 学習指導要領の変遷（2）：系統主義へ

経験カリキュラムの下で生じた問題を把握した後に、その問題を解決すべく改訂された昭和33年、43年学習指導要領の特色を把握する。高度経済成長とあいまって系統学習が重視され、優れた理数教育が導入された。その理論的背景となったブルーナーの「レディネス」について理解する。

第 4 回 学習指導要領の変遷（3）：ゆとりの導入

昭和40年代の教育問題は、系統主義への批判、「ゆとり」導入の契機となった。まずは、戦後から平成にかけての教育問題の質的变化を理解しよう。産業化、情報化等の社会情勢と合わせて、教育問題の要因を考えてみよう。昭和52年学習指導要領では教育内容が削減されたが、この選択について君はどのような評価を下すか。

第 5 回 学習指導要領の変遷（4）：生きる力の育成

生涯学習時代に入り、自己教育力の重要性が高まる。平成元年、平成10年学習指導要領では、「生きる力」を育成するカリキュラムへと移行する。具体的にどのような特色として表れたのかを学ぶ。そして、生きる力の育成方法が確立しなかつ

た理由、学力低下を引き起こした要因について考えてみよう。

第 6 回 ゆとり教育への反省と平成20年学習指導要領

PISA調査2000年～2016年の結果から、日本の学力低下問題を把握する。そこから浮かび上がる学習習慣等の問題、その問題を踏まえて検討されたゆとり教育からの脱却方向性、平成20年学習指導要領の改訂のポイントについて学ぶ。

第 7 回 教育課程は今どのように変わろうとしているか
中学校では令和3年から、高校では令和4年から全面実施となる新学習指導要領において、教育課程は大きく変わろうとしている。これまでの文部科学省、中教審での議論を精読し、「2030年の社会」、「何ができるようになるか」、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」の4点からまとめて発表しよう。

第 8 回 高等学校学習指導要領における「理科」

君たちが高校教育を受けた時の平成20年学習指導要領「理科」と新学習指導要領「理科」を比較して、教育内容、教育方法がどのように変わるのかを把握し、発表を通して理解を深めよう。

第 9 回 「何かができる」を評価するために

何を学んだのかを評価するためには、君たちになじみのある記述式試験（完成法、直接記述、選択肢問題、真偽問題等）が有効であるが、「何ができるようになったか」を評価するためには従来の記述式試験は不適切である。新しい評価法についてアイデアを出し合おう。さらに、有効な評価法の一つであるパフォーマンス課題について深く理解しよう。

第 10 回 教育課程編成を見直す実践的視点（1）：社会・外国語を中心に

教育課程を見直す学校現場の事例を検証する。社会、および外国語ではどのような実践例があるか、特色ある実践例を分析し、教育課程編成の視点を学ぼう。

第 11 回 教育課程編成を見直す実践的視点（2）：数学・理科を中心に

教育課程を見直す学校現場の事例を検証する。数学、および理科ではどのような実践例があるか、特色ある実践例を分析し、教育課程編成の視点を学ぼう。

第 12 回 教教育課程における領域の意義（1）：特別活動と教育課程

教育課程における特別活動の意義を学ぶ。学校教育における特別活動の役割を変遷を追って学ぼう。また、新学習指導要領における特別活動への期待、画期的実践例を学び、特別活動の意義についての理解を深めよう。

第 13 回 教育課程における領域の意義（2）：総合的な学習の時間と教育課程

教育課程における「総合的な学習の時間」の意義を学ぶ。「総合的な学習の時間」導入の経緯とその変遷を追って、学校教育におけるその役割を学

ぼう。また、新学習指導要領における総合的な学習の時間への期待、画期的実践例を学び、総合的な学習の時間の意義についての理解を深めよう。

第 14 回 社会状況の変化と教育課程のあり方
社会状況の変化にあわせて、教育目標、教育課程は変わっていかねばならない。学校は、どのように対応していくのか。教育課程を編成する学校現場の実際を学び、教育課程編成への具体的イメージを深めよう。

第 15 回 子どもの視点から教育課程を問い直す
教育目標、教育課程を変えるためには評価を変えなければならない。学校は子どもの成長を促す場である。子どもの成長を促す教育課程を編成する上では、評価のあり方を慎重に検討する必要がある。子どもの成長を促す評価について、事例に基づき理解を深めよう。

〔成績評価の方法〕

レポート50%、小課題50%

教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

①第2回目～第9回目：あらかじめ配布する資料を熟読し、説明できるほど理解しておく。授業では資料プラスアルファの内容をとり扱う上に、議論したり、発表したりする活動もあるので、熟読していなければ、主体的に授業に参加することはできない。

②第10回～第15回：教科書を熟読しておく。

〔教科書・参考書〕

(教科書)

金森俊朗・辻直人『学び合う教室 金森学級と日本の世界教育遺産』角川新書

(参考書)

片上宗二、木原俊行『新しい学びをひらく総合学習』ミネルヴァ書房

ブルーナー、鈴木祥蔵、佐藤三郎 訳『教育の過程』岩波書店

田中耕治『教育評価』岩波書店

文部科学省『中学校学習指導要領』

山崎保寿、黒羽正見『教育課程の理論と実践』学陽書房

〔その他履修上の注意事項〕

第1回～第9回は石倉が担当する。第10回から第15回は辻が担当し、夏季集中講義期間に2日間の集中講義形式で実施する。教科書は第10回以降で使用する。

社会の変化と学校教育の関係についての理解を深めるために、教育に関する新聞記事やニュースを積極的に読んだり見たりするようにする。

〔オフィスアワーの設定〕

石倉：随時、研究室にて。

辻：授業後。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

本講義は教育原理を修得した学生に対して開講する教育学中級レベルの講義である。したがって、教育原理を履修していない学生は受講することができない。しかしながら、意欲があるにもかかわらず唯この条件のために本講義を履修できないのは遺憾である。そのような学生は、授業第1回目よりも前に研究室を訪問しなさい。課題図書一冊と受講

のチャンスを提供する。課題図書を熟読し、口頭試問において3つの問いに完璧に答えられたらば、受講を許可する。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職科目関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

学習指導要領、教育方法・内容、教育評価、教育課程編成、教育実践

理科教育法 I (Methodology of Teaching Science I)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 前期
火曜 4限 火曜 5限
松山 友之

〔目的〕

理科教育の目的・内容・方法・評価に関する基本的な知識を身に付け、学校教育における理科教育の位置づけや意義について考察できるようになる。

〔到達目標〕

1. 科学技術・社会・歴史等の文献で、理科教育の存在意義を理解することができる。
2. 理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
3. 理科教育の目的・内容・情報機器を活用した学習指導方法・評価等に関する基本的な考え方を理解する。
4. 観察、実験の安全管理・事故防止、薬品管理等ができるようになる。
5. 理科教師として必要な、基本的な教師の構えについて説明できる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン、教育課程上の教科「理科」の存在意義
自身の中学校や高校の理科の授業を思い出し、どのような理科の授業が効果的か考えをまとめ、問題意識を明らかにして「理科」の存在意義について考える。
- 第 2 回 教科書を手がかりにした理科教育の現状と課題
現行の中学校や高校の教科書をもとに理科教育の現状と授業実践の課題についてまとめる。
- 第 3 回 理科教育の歴史（科学の動向と理科教育）
日本の理科教育の歴史を概観し、最新の科学の動向と理科教育のあり方について考え、実際教壇に立って授業を行うために必要なものは何かを考える。
- 第 4 回 理科教育の目標・目的
理科教育の歴史や学習指導要領をもとに理科教育の目標・目的の変遷についてまとめ、新指導要領の目標・目的について分析する。
- 第 5 回 学習指導要領理科の構造と内容構成

学習指導要領の理科編の構造と内容構成について調べ、学習指導要領を読み解き方やそこからどのように授業のねらいや展開を考え授業を構想するかについてまとめる。

- 第 6 回 理科学習論Ⅰ：問題解決
授業の構想を練る場合、理科の学習論として日本で重視されている問題解決について考え、その歴史や具体的に授業でどのように生かすかについて考える。
- 第 7 回 理科学習論Ⅱ：探究学習
授業の構想を練る場合、理科の学習論として、日本の理科教育の中心的な考え方である探究学習をその歴史と具体的な進め方をもとに考える。
- 第 8 回 理科学習論Ⅲ：その他の多様な学習指導法
理科の授業中に行われるグループ学習等の学習形態の工夫やジグソー法などの指導法の工夫について理解を深める。
- 第 9 回 理科学習における「実験」
理科の授業の中で中心的な学習活動である「実験」について、予想の立て方や準備の仕方、結果とその考察について代表的な実験の事例をもとに理解する。
- 第 10 回 理科学習における「観察」
理科の授業の中で中心的な学習活動の一つである「観察」について、ルーペや顕微鏡などの基本的な使い方とスケッチ等の技能について理解する。
- 第 11 回 理科学習における「飼育・栽培」
理科学習において特に生物分野の観察を支える「飼育・栽培」について、その基本的な技能と生命の尊重等について考える。
- 第 12 回 理科学習の評価Ⅰ：評価の考え方と観点別評価・評定
理科の学習とその評価のあり方について、学習指導要領をもとに考えるとともに、指導要録から観点別評価の意味と具体的な方法について考える。
- 第 13 回 理科学習の評価Ⅱ：評価問題の作成と指導要録
理科学習の評価について、評価問題をどのように作成し、得られた結果をもとにどのように指導要録に学習の状況をまとめるかについて考える。
- 第 14 回 理科室運営・事故防止
理科室の管理と運営及び実験等の事故防止について、実際の事例をもとに考え、安全面で配慮すべきことを理解する。
- 第 15 回 理科教師論
理科の授業はどうあるべきかについて問題意識をもって学んできたことをまとめ、理科教師としてどのように授業に臨むべきかについて考える。

〔成績評価の方法〕

毎回のワークシートによる学びの振り返りおよび課題小レポート（50%）および定期試験（50%）により評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

（教 材）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編（平成21年12月 文部科学省）

（参考書）その都度、別途提示する

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

実務経験に関して：富山県公立中学校に勤務。実際の授業の経験をもとに理科授業のあり方について講義する。

〔資格関係〕

〔キーワード〕

理科教育法Ⅱ（Methodology of Teaching Science II）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 後期
火曜 4限 火曜 5限
松山 友之

〔目的〕

生物・地学分野における教材研究の視点と方法を理解し、多様な学習指導法と学指導方法に対応した評価方法を身に付ける。

〔到達目標〕

1. 理科における教材研究の意味とその方法を説明することができる。
2. 生物・地学分野に関する教材研究を行い、学習内容の系統性と学問領域との関連、学年や領域に応じた指導上の留意点を理解する。
3. 生物・地学分野に関連する科学史や情報機器を教材研究に活用することができる。
4. 理科学習で用いられる多様な学習指導法を身に付ける。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 教材研究の目的と方法
第 2 回 生物分野の教材研究（1）
第 3 回 生物分野の教材研究（2）
学年に応じた学習指導法の分析と考察（含：演習）
第 4 回 生物分野の教材研究（3）
第 5 回 生物分野の教材研究（4）
第 6 回 生物分野の教材研究（5）
第 7 回 地学分野の教材研究

- 学年に応じた学習指導法の分析と考察（含：演習）
- 第 8 回 地学分野の教材研究
- 第 9 回 地学分野の教材研究
領域に応じた多様な学習指導法の分析と考察（含：演習）
- 第 10 回 地学分野の教材研究
- 第 11 回 地学分野の教材研究
領域に応じた多様な学習指導法の分析と考察（含：演習）
- 第 12 回 学習指導法の最新事情 I
アクティブラーニング（含：演習）
- 第 13 回 学習指導法の最新事情 II
ジグソー法 ほか（含：演習）
- 第 14 回 学習指導法の最新事情 III
ESD の視点を重視した学習指導（含：演習）
- 第 15 回 学習指導法の最新事情 IV
総合的な学習の時間と一体化した学習指導（含：演習）

〔成績評価の方法〕

毎回のワークシートによる学びの振り返りおよび課題小レポート（50%）および定期試験（50%）により評価する。演習への参加態度も評価の対象とするので、積極的な参加を求める。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

（教材）中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成21年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 理科編（平成21年12月 文部科学省）

（参考書）その都度、別途提示する

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

〔キーワード〕

理科教育法Ⅲ（Methodology of Teaching Science III）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
3年
2単位 次年度前期（隔年）
火曜 5限 火曜 4限
松山 友之

〔目的〕

理科の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解した上で、物理・化学分野に関する教材研究を行い、その学習内容を学問領域と関連させて理解する。また、観察・実験を通して問題解決を図る授業を実施するための基礎的な力を身に付ける。

〔到達目標〕

1. 理科における教材研究の意味とその方法を説明することができる。
2. 物理・化学分野に関する教材研究を行い、学習内容の系統性と学問領域との関連、指導上の留意点を理解する。
3. 物理・化学分野に関連する科学史や情報機器を教材研究に活用することができる。
4. 観察、実験の安全管理・事故防止、薬品管理等ができるようになる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 理科の教育目標、育成を目指す資質・能力の理解、理科における教材研究とその方法の理解、探究する力や態度の育成、言語活動の充実、学習評価、観察・実験を通じた問題解決
学習指導要領理科の目標、目指す資質・能力について基本的な考え方を理解し、系統的なつながりについて考える。また、教材研究や重視されている探究する力、学習評価、問題解決について基本的な考え方を学ぶ。
- 第 2 回 物理・化学分野に関連する科学史と教材研究、情報機器の活用、ものづくり
物理・化学分野に関連する科学史と重要なトピックをもとに法則を発見した科学者について学び、それがどのように教科書で扱われているかを理解する。また、情報機器の活用やものづくりについて具体的に学ぶ。
- 第 3 回 物理分野の教材研究（1）
物理分野の学習内容とその系統性の理解、主な教材の分析を行い、発達段階と科学的な視点から分析する。
- 第 4 回 物理分野の教材研究（2）
力と運動について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 5 回 物理分野の教材研究（3）
仕事とエネルギーについて、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。

- 第 6 回 物理分野の教材研究 (4)
熱、波について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 7 回 物理分野の教材研究 (5)
電気について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 8 回 物理分野の教材研究 (6)
エネルギー、生活と物理現象について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 9 回 化学分野の教材研究 (1)
化学分野の学習内容とその系統性の理解、主な教材の分析を行い、発達段階と科学的な視点から分析する。
- 第 10 回 化学分野の教材研究 (2)
物質の探究について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 11 回 化学分野の教材研究 (3)
物質の構成、原子の構造、周期表について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 12 回 化学分野の教材研究 (4)
物質と化学結合について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 13 回 化学分野の教材研究 (5)
化学変化、酸と塩基について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 14 回 化学分野の教材研究 (6)
酸化と還元、生活と化学について、中学校と高校の学習を比較し、どのようにつないで学習していくことが効果的か考える。
- 第 15 回 物理・化学分野の観察、実験の進め方と安全管理・事故防止、薬品管理と廃棄物の処理、環境保全 定期試験は実施しない
物理・化学分野の観察、実験の進め方と安全管理について具体的に学ぶ。

〔成績評価の方法〕

毎回のワークシートにおける学びの振り返り (30%) 及び各分野の教材研究に関するレポート (70%) により評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

〔教科書・参考書〕

(教材) 教科書は特に指定しない。授業に関する資料等は各回の授業で適宜配布する。

(参考書) 中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部

科学省)

中学校学習指導要領解説 理科編 (平成29年
6月 文部科学省)

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

〔キーワード〕

理科教育法Ⅳ (Methodology of Teaching Science Ⅳ)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学以前
3年
2単位 次年度後期 (隔年)
火曜 4限 火曜 5限
松山 友之

〔目的〕

理科の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、理科の学習指導理論を踏まえ、観察、実験を通して問題解決を図る具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、学習指導案を作成する。さらにその学習指導案をもとに模擬授業を行い、振り返りを通して授業改善について考察する力を身に付ける。

〔到達目標〕

1. 理科の学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。
2. 教材研究をもとに、観察、実験を通して問題解決を図る授業を考え、学習指導案を作成することができる。
3. 学習指導案をもとに、情報機器を効果的に活用し、具体的な授業を想定した模擬授業を実施することができる。
4. 模擬授業の振り返りを通して、授業改善について考察することができる。

〔授業計画・内容 (概要)〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 理科の学習指導理論と授業
授業設計の方法とその理解、「主体的・対話的で深い学び」の実現、ピ
- 第 2 回 学習指導案の構成の理解と作り方、模擬授業の準備①
- 第 3 回 具体的な授業場面を想定した効果的な観察、実験の進め方、安全管理、模擬授業の準備②
- 第 4 回 ICT や情報機器及び教材を効果的に活用した授業の進め方、授業の評価と授業改善、模擬授業の準備③
- 第 5 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(1) (第1分野) 身近な物理現象、身の回りの物質
- 第 6 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(2) (第1分野) 電流とその利用
- 第 7 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(3) (第1分野) 化学変化と原子・分子

- 第 8 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(4) (第1分野) 運動とエネルギー
- 第 9 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(5) (第1分野) 化学変化とイオン、科学技術と人間
- 第 10 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(6) (第2分野) いろいろな生物とその共通点
- 第 11 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(7) (第2分野) 大地の成り立ちと変化
- 第 12 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(8) (第2分野) 生物の体のつくりと働き
- 第 13 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(9) (第2分野) 気象とその変化、生命の連続性
- 第 14 回 学習指導案の作成、模擬授業と振り返り
(10) (第2分野) 地球と宇宙、自然と人間
- 第 15 回 模擬授業の振り返りと授業改善、実践研究の動向と授業設計の向上を目指したこれからの理科授業のあり方

【成績評価の方法】

毎回の学びや模擬授業の振り返り (30%)、模擬授業の発表内容 (30%)、模擬授業の実施と授業改善の考察に関するレポート (40%) により評価する。

【予習・復習に関する指示】

予習：シラバスを参考に講義に関する理科の学習内容について調べる。

復習：学んだ理科の学習内容を実際の授業の中でどのように生かすか考えをまとめる。

【教科書・参考書】

(教材) 教科書は特に指定しない。授業に関する資料等は各回の授業で適宜配布する。

(参考書) 中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領解説 理科編 (平成29年6月 文部科学省)

【その他履修上の注意事項】

【オフィスアワーの設定】

授業の前後で随時受け付ける。

【カリキュラムの中の位置づけ】

【その他】

【資格関係】

【キーワード】

農業教育法 I (Methodology of Teaching Agriculture I) 2019年度以降

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 後期
水曜 5限
藤田 宣彦

【目的】

農業教育や農業高校の変遷から現在の農業教育・農業高校の現状と課題を考えるととともに、農業学習の魅力や特徴、学習内容、学習指導法、学習指導要領、学習評価、学習指導案、模擬授業等の講義や演習を通し、農業教員として必

要な基本的な知識や技術、指導法を身に付けることを目指す。

【到達目標】

1. 農業教育の変遷から、農業教育や農業高校の置かれている現状と課題が理解できる。
2. 農業学習には実験実習とプロジェクト学習法が不可欠なことを理解できる。
3. 高等学校学習指導要領農業編の内容について理解できる。
4. 評価規準や学習指導案の作成ができ、模擬授業が実践できる。

【授業計画・内容 (概要)】

【授業計画】

- 第 1 回 農業教育、農業高校、農業教員とは
- 第 2 回 農業教育史 I
(農業教育の確立時代から拡充時代)
- 第 3 回 農業教育史 II
(農業教育の改革時代から今)
- 第 4 回 農業及び農業教育の現状と課題
- 第 5 回 農業学習の魅力とその特徴 (実験実習と学校農場)
- 第 6 回 農業学習とプロジェクト学習法
- 第 7 回 農業学習と学校農業クラブ
- 第 8 回 高等学校学習指導要領解説 農業編 I
(改訂の趣旨と要点、教科の目標と組織、科目の構成)
- 第 9 回 高等学校学習指導要領解説 農業編 II
(教育課程の編成と指導計画の作成)
- 第 10 回 教育評価と学習評価
(評価の観点とその趣旨、評価規準の作成、学習評価の方法)
- 第 11 回 視聴覚機器及びICTを導入・活用した学習指導案づくりの要点
- 第 12 回 視聴覚機器及びICTを導入・活用した学習指導案づくり (演習)
- 第 13 回 授業のあり方、進め方
- 第 14 回 模擬授業 (演習)
- 第 15 回 現在の農業教育・農業高校に求められる教師像 (グループ協議)
- 第 16 回 定期試験

【成績評価の方法】

定期試験 (50%) や課題レポート (20%)、模擬授業を含む授業への取り組み状況 (30%) により総合的に評価する。

【予習・復習に関する指示】

【教科書・参考書】

(教材) 毎回資料を配布する。

(参考書)

「新 高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示 文部科学省)

「新 高等学校学習指導要領解説 農業編」(平成30年7月 文部科学省)

【その他履修上の注意事項】

【オフィスアワーの設定】

授業の前後で随時受け付ける。

【カリキュラムの中の位置づけ】

〔その他〕

実務経験に関して：教員生活36年間の内、34年間で農業高校で農業教育に携わる。実際的な農業教育の経験をもとに、農業教育の未来を担う農業教員に必要な知識や技術、指導力等について講義する。

〔資格関係〕

〔キーワード〕

農業教育法Ⅱ (Methodology of Teaching Agriculture II) 2019年度以降

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
3年
2単位 前期
火曜5限
藤田 宣彦

〔目的〕

農業教育法Ⅰの内容を深化させ、原則履修科目「農業と環境」「課題研究」における実践的なプロジェクト学習法の指導を身に付けるとともに、科目「農業と環境」の指導と評価の年間計画や評価規準の作成を通し、自信を持って学習指導案の作成及び模擬授業ができる力を養う。また、農業教育、農業高校の課題を的確に把握し、その解決に積極的に立ち向かう農業教員の育成を目指す。

〔到達目標〕

1. 「農業と環境」や「課題研究」のプロジェクト学習の指導ができる。
2. 農業学習における農業クラブ活動の重要性を理解し、その指導ができる。
3. 科目の指導と評価の年間計画が作成できる。
4. 評価規準や学習指導案が作成でき、自信を持って模擬授業が実践できる。
5. 農業教育の課題を理解し、これからの農業教育の在り方について提言ができる。

〔授業計画・内容(概要)〕

〔授業計画〕

- 第1回 農業教育、農業教員が果たす役割
(農業教育史や宮沢賢治に学ぶ)
- 第2回 高等学校学習指導要領解説 農業編の解説
(農業科の改訂趣旨と要点、教科の目標と組織)
- 第3回 プロジェクト学習法の指導Ⅰ
(科目「農業と環境」のプロジェクト指導)
- 第4回 プロジェクト学習法の指導Ⅱ
(科目「課題研究」のプロジェクト指導)
- 第5回 学校農業クラブ活動の指導
(農業クラブ活動の運営、プロジェクト発表などの指導)
- 第6回 農業高校の組織、学校農場の管理と運営
- 第7回 指導と評価の年間計画・評価規準の作成ポイント
- 第8回 指導と評価の年間計画の作成
(演習：科目「農業と環境」)
- 第9回 単元指導計画の作成
(演習：科目「農業と環境」)

- 第10回 視聴覚機器及びICTを導入・活用した学習指導案の作成ポイント
(細案と略案づくり)

- 第11回 視聴覚機器及びICTを導入・活用した学習指導案づくり (演習)

- 第12回 農業科の授業の進め方とその特徴

- 第13回 学習指導案の作成と模擬授業Ⅰ
(演習：科目「農業と環境」)：ICTの活用を含む

- 第14回 学習指導案の作成と模擬授業Ⅱ
(演習：大学の専攻に関連する科目)：ICTの活用を含む

- 第15回 農業及び農業教育、農業高校の課題とその解決に向けて (グループ協議)

〔成績評価の方法〕

各課題レポート(20%)、授業への取り組み状況(30%)、最終レポート(50%)により総合的に評価する。定期試験は実施しない。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

(教材) 毎回資料を配布する。

(参考書)

「新 高等学校学習指導要領」(平成30年3月告示 文部科学省)

「新 高等学校学習指導要領解説 農業編」(平成30年7月 文部科学省)

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

実務経験に関して：教員生活36年間の内、34年間で農業高校で農業教育に携わる。実際的な農業教育の経験をもとに、農業教育の未来を担う農業教員に必要な知識や技術、指導力等について講義する。

〔資格関係〕

〔キーワード〕

道徳教育論 (Theory of ethic education)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
3年
2単位 前期
火曜5限
石倉 瑞恵

〔目的〕

「道徳」、および学校における諸活動を通して多面的に行う道徳教育のあり方について理解を深め、それを実践する資質を養う。そこで、日本の道徳教育をその歴史の変遷の中で捉えて問題を把握する能力を身につけ、道徳教育思想を学んで道徳と道徳教育を多角的に捉える思考力を身につける。さらに、道徳教育の年間計画と学習指導案を作成し、教育者としてどのような道徳教育を行うことができるのかを自らに問いかける。倫理的思考力を高め、時代と子ども

の変化に応じて多様な道德教育のあり方を開発できるような資質を育むことをねらう。

【到達目標】

- 1 近代以降の日本の道德教育の変容、道德教育をめぐる問題について説明することができる。
- 2 哲学思想、道德教育思想を学び、それぞれの思考の道筋を説明することができる。
- 3 現在の学校教育における道德教育の考え方を理解し、課題を指摘することができる。
- 4 「道德」運営の方法について理解し、多様な教育方法を取り入れた指導計画・学習指導案を作成することができる。

【授業計画・内容（概要）】

【授業計画】

- 第 1 回 道德教育は学校で必要か
観念的思考に入る前のexerciseをしよう。「道德教育は学校で必要」派と「道德教育は学校では不要」派の2グループにわかれて議論だ（教育制度論で学んだコンドルセとロムの議論を思い出そう）。グループは機械的に設定するので、本心とは違うグループに所属することもある。所属グループの主張を擁立すべく論を構築しよう。
- 第 2 回 道德の授業を参観し議論しよう
実際に中学校で行われた道德の授業を見て（ビデオ学習）、授業分析をしてみよう。目的、方法、展開、生徒の活動、教師の反応、評価の観点、気が付いたところをメモしよう。ビデオ学習の後は議論。学校の道德教育は、生徒のどのような成長を期待していると思うか？
- 第 3 回 日本における道德規範のルーツ
明治幕開けとともに、日本は道德教育の基準をどこに置くのかを模索することになった。神道？仏教？宗教に依らない道德教育だとしたら、儒教思想か、あるいは文明開化とともに入ってきた近代市民理論だろうか？「修身」教科書第1期から第5期までで扱われている題材の変化を分析し、道德規範のルーツをどこに定めたのか考えてみよう。
- 第 4 回 修身・教育勅語後遺症
戦後、修身は廃止されたが、日本は再び道德教育の基準を失うことになる。公民科や社会科構想、修身科復活などは次々と挫折する。「道德の時間」設置までの道德教育、かつての教育勅語をめぐる議論の道筋をたどろう。そして、君たちはこの議論についてどのように考えるか。
- 第 5 回 「道德の時間」設置後の道德教育の課題
「道德の時間」設置後の日本社会の急速な変化は、高度経済成長を支える「人づくり」から、技術革新による人間性のゆがみに対処し、緊張する国際社会での日本の使命感を涵養する「期待される人間」づくりへと道德教育への期待を膨らませていく。そのような道德教育の問題について議論してみよう。
- 第 6 回 「道德」教科化の背景

「生きる力」が提唱されてから「道德」が教科化されるまでの学校教育における道德の扱いの変化、道德教育を推進・定着させる試みとその問題点を理解しよう。そして、道德が「教科」になった背景を理解したら、議論をしよう。教科化について賛成か、反対か、その根拠は？

- 第 7 回 古代哲学における道德教育思想：プラトンとアリストテレス（1）
哲学的思索と議論の第1弾。徳はどのように育まれるのか、師弟でありながら、異なった見解を持っていたプラトンとアリストテレスを理解しよう。キーワードはイデアとエイドス。プラトン班とアリストテレス班に分かれて、議論しながら理解を深め、現代的な事例を引用してそれぞれの説をまとめてみよう。
- 第 8 回 西洋における道德教育思想：プラトンとアリストテレス（2）
第7回の班内議論、まとめの成果を発表しよう。他班の発表から、同じ思想家に対する解釈の相違を見出し、さらなる理解につなげよう。さらに、プラトンとアリストテレスの道德教育論の問題点を相互に指摘しあい、自らの道德教育論の礎を築く糧としよう。
- 第 9 回 西洋における道德教育思想：ベーコンとデカルト 1
哲学的思索と議論の第2弾。ベーコン（経験論）とデカルト（合理論）の論を理解しよう。徳はどのように育まれると論じているか。キーワードは、イドラと高邁の心。ベーコン班とデカルト班に分かれて、議論しながら理解を深め、現代的な事例を引用してそれぞれの説をまとめてみよう。
- 第 10 回 西洋における道德教育思想：ベーコンとデカルト（2）
第9回の班内議論、まとめの成果を発表しよう。他班の発表から、同じ思想家に対する解釈の相違を見出し、さらなる理解につなげよう。さらに、ベーコンとデカルトの道德教育論の問題点を相互に指摘しあい、自らの道德教育論の礎を築く糧としよう。
- 第 11 回 小・中・高の道德の目標と内容・方法
小学校・中学校・高等学校における道德の目標と内容を学ぼう。学校段階が上がるにつれてその内容はどのように変化しているのか考えよう。さらに、副教材（ビデオ教材）を分析し、それぞれの教育段階における道德教育の方法について学ぼう。
- 第 12 回 道德教育の世界的動向
道德教育の新境地を開拓するには、様々な事例にあたるのが肝要である。他国ではどのような道德教育が行われているのか。フランス、ドイツ、アメリカを事例として解説する。君たちは他国の道德教育についてどのような考えを抱いたか、解説の後は議論をしよう。
- 第 13 回 「道德」年間指導計画

「道徳」年間計画の作成の方法を学ぼう。年中行事や部活動行事、各教科と関連させて「道徳」のテーマを設定することがポイントとなる。いくつかの事例を学んだ後に、「道徳」年間計画を作成してみよう。「理科」教員としてのオリジナリティを生かした年間計画づくりにチャレンジしよう。

第 14 回 「道徳」学習指導案作成

「道徳」学習指導案を作成しよう。道筋は①テーマを決めて、年間計画の中での位置づけを確認する。②評価の観点を明確にする。③教材を決めて教材研究。④生徒の活動を予測して、展開を考える。大前提として、自分の道徳教育論が確立していることが肝要だ。

第 15 回 学習指導案を発表しよう

第14回で作成した学習指導案を発表しよう。他者の指導案は、新しい視点に気づききっかけとなり、自分の指導案を改良する手がかりとなる。多様な教材、多様な教育方法、展開を学ぼう。

【成績評価の方法】

3回のプレゼンテーション50%、議論50%
教職課程の規範として欠席は認められない。

【予習・復習に関する指示】

あらかじめ配布する資料は、図書一冊の一章分に相当する。それを熟読し、授業においていかなる説明を求められても、完璧に答えられるまでに熟読し、わからない事項は調べて補っておく必要がある。授業では、資料プラスアルファの内容についての解説、質疑応答、議論を行う。熟読していなければ授業への主体的参加は難しい。

【教科書・参考書】

(教科書)

適宜資料を配布する。

(参考書)

貝塚茂樹『道徳教育の教科書』学術出版会
ルソー、今野一雄『エミール』岩波文庫
フレーベル、荒井武『人間の教育』(上)(下)岩波文庫
田中圭治郎『道徳教育の基礎』ナカニシヤ出版
文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』

【その他履修上の注意事項】

日頃から、新聞等に目を通し、教育に関する記事のみならず、様々なニュースに関心をもつ。小説や随筆など様々な文章を読んで、人間理解の窓口を多く開放するように心がける。

【オフィスアワーの設定】

随時、研究室にて。

【カリキュラムの中の位置づけ】

本講義は、教育原理、教育課程論、教育制度論を履修した学生のみが履修することができる最高レベルの教育学の講義である。教育原理において教育学の視点と基本的議論の方法を学び、教育課程論では、教育という現象の内部に入りこみ、教育の諸要素を構成する術を学ぶ。教育制度論は教育を俯瞰的にとらえ、社会・文化・宗教等の関わりから教育を議論する資質を身につける。ここまで至って初めて、道徳教育論という観念的、哲学的事象を理解し議論する段

階に達する。したがって、教育原理、教育課程論、教育制度論のいずれか一つでも履修していない者は自主的に本講義の受講を辞退するがよい。

【その他】

本講義では指導計画・指導案作成までを含むが、道徳模擬授業までを要求しない。しかし、教育実習で道徳の授業をやらせていただけるのであれば、意欲的に取り組みなさい。本授業において筋道を立てて丁寧に思考するトレーニングを積んでおけば、自信をもって臨むことができるだろう。道徳には正解はない。道徳の授業もしかりである。Don't be afraid!

【資格関係】

教職課程関連科目(履修の手引き別表参照)

【キーワード】

道徳教育思想、哲学思想、道徳科、教育方法、指導計画・学習指導案

特別活動及び総合的学習の時間の指導法 (Methodology on Special Activities and Period for Integrated Studies) 2019年度以降
特別活動の指導法 2018年度以前

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 前期集中
その他
橋本 定男

【目的】

中等教育における特別活動及び総合的な学習の時間の意義と目的、指導方法上の特質や方法原理、両者の関連等を学んだ上で、特別活動においては各領域(学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事、関連して部活動)の活動内容について、総合的な学習の時間においては横断的・総合的な学習による実社会・実生活の課題探求について、具体的な実践や効果的な指導方法と評価方法、指導計画の作成にかかわる学習や議論を工夫し、それぞれの専門的事項に関する理解を深め、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

1. 特別活動及び総合的な学習の時間を指導する上での基本的な視点を身に付ける。
2. 特別活動及び総合的な学習の時間の授業や活動について、指導計画や動構想を立てることができる。

【授業計画・内容(概要)】

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーション

授業の全体計画説明。特別活動とは何か総合的な学習の時間とは何かについて、これまでの学校での学び体験(思い出)と、それぞれの主な内容と照らし合わせ、実感的に理解する。

第 2 回 意義と目的

特別活動及び総合的な学習の時間の意義と目的、両者の関連や代替え、類似点・差異を理解する。教育課程全体における位置付けに関して「土台」か「発展」か議論し、理解を深める。

- 第 3 回 指導方法上の特質
特別活動及び総合的な学習の時間の指導方法上の特質を検討する。体験活動と探求活動の指導方法について原理的な側面（方法原理）や技術的な側面に着目しながら、実践例を基に検討する。
- 第 4 回 特別活動の内容と指導① 学級活動・ホームルーム活動
内容（1）（2）（3）の目的、内容、指導方法の特質を理解する。内容（1）「生活づくりへ参画」では授業ビデオを取り上げ、議論を通して話合いの意義と指導の特質を検討する。
- 第 5 回 特別活動の内容と指導② 合意形成と意思決定
特別活動の核心である話合い活動を取り上げる。合意形成に向けた話合いのあり方と多数決について議論（ワールドカフェ）し、さらに意思決定につながる話合いと比較し、理解を深める。
- 第 6 回 特別活動の内容と指導③ 生徒会活動
目的と内容を理解し、その上で現状と実践事例を素材に自発的、自治的活動を育てる指導方法を考えるとともに諸問題を解決する活動の指導構想（指導計画）をグループワークで作成する。
- 第 7 回 特別活動の内容と指導④ 学校行事
目的と内容を理解し、その上で自治的に取り組む指導と文化づくりに取り組む指導について、実践ビデオを使いながら検討し、さらに具体的な行事の計画づくりに挑戦する。
- 第 8 回 総合的な学習の時間の指導計画①
横断的・総合的な課題と地域や学校の特色に応じた課題を中心に年間指導計画の考え方を検討する。年間の構想を具体化する作業を通して計画作成の技能を身に付ける。
- 第 9 回 総合的な学習の時間の指導計画②
生徒の興味・関心に基づく課題と職業や自己の将来に関する課題を中心に単元指導計画の考え方を検討する。単元構想を具体化する作業を通して計画作成の技能を身に付ける。
- 第 10 回 総合的な学習の時間の指導
探求的な学習の過程の考え方、それを具現する指導方法について実践例を素材に検討するとともに、「飼育栽培と命の授業」実践についてディベートし、指導について理解を深める。
- 第 11 回 評価と指導改善
特別活動及び総合的な学習の時間において生徒の学習状況を把握、評価する考え方と評価方法を検討する。評価を指導方法の検証ととらえ、指導改善へと結ぶ工夫を考える。
- 第 12 回 主体的・対話的で深い学び
特別活動及び総合的な学習の時間において「深い学び」をテーマに生徒の体験や活動の質を深めるための条件づくりや活動の組織、指導の工夫などについて議論し、理解を深める。
- 第 13 回 地域や関係機関との連携
特別活動、総合的な学習の時間及び部活動について、地域や関係諸機関と連携、協働する意義や現

- 状を理解する。また、地域の伝統芸能を継承する実践ビデオを視聴し、理解を深める。
- 第 14 回 教育の課題解決に向けて（ディスカッション①）
現代の学校教育の課題（いじめ、不登校、荒れなど）を取り上げ、その解決に向けた実践の可能性を探る。授業内容や自身の体験、思い等を課題解決に結び付けて議論し、学びを総括する。
- 第 15 回 総括的議論（ディスカッション②）
特別活動、総合的な学習の時間について、各自のとらえ方において中心としたい意義と具現するための具体的な活動や指導を整理し、互いに夢を語り合うような形で総括的に議論する。
- 第 16 回 定期試験
テキスト・参考書、配付資料、自作ノート持ち込み可

〔成績評価の方法〕

各回で課すミニレポート（40%）、定期試験結果（60%）などを総合的に判断する。定期試験は、ノートや配布資料など持参自由とする。日頃のノートづくりが大切である。毎回、ミニレポート提出する。授業に出席していても、ミニレポート未提出が一定程度以上多い場合、単位を認定しない。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書）やさしく学ぶ特別活動（赤坂雅裕、佐藤光友編著、ミネルヴァ書房、2018）
（参考書）中学校・改訂学習指導要領解説・特別活動編（文部科学省）

高等学校・現行学習指導要領解説・特別活動編（文部科学省）

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

教職科目（中学・高校必修）

〔キーワード〕

教育方法・技術論（Method and Technology for Education）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 前期集中
その他
黒田 卓

〔目的〕

本授業では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目的としている。大きく変わろうとしている学校と、そこで行われている授業について、教育の方法、指導技術や評価方法、授業を支援するメディアの

役割について理解する。実習的な活動も取り入れ、教える立場として授業を考えることにより、これからの教師に求められる資質、能力について理解し、その準備を自ら行えるよう支援する。

〔到達目標〕

- ・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法について説明できる。
- ・教育の目的に適したさまざまな指導技術や評価方法について説明できる。
- ・教育の情報化の進展に伴う教育方法の変化を理解し、効果的なメディアの活用、教材の作成ができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーションー学習とはなにか
授業概要の説明
- 第 2 回 メディアと学びの関係ーデータ、情報、知識とは何か
データ、情報、知識の違い。学びにおけるメディアの役割の理解
- 第 3 回 教育の情報化の動向ー学校はどう変わってきているのか・これからの教師・生徒に求められる情報活用能力)
教育の情報化の現状、今後について
- 第 4 回 子どもたちを取り巻く学習環境の変化ー電子教科書・電子黒板を活用した授業実践
電子メディアの普及による子どもの学びの環境の変化について
- 第 5 回 すぐれた授業とはなにか
すぐれた授業とはなにかを考える
- 第 6 回 授業をデザインするー授業を考える上で必要となる要素、戦後教育方法研究に学ぶ
授業設計のために必要となる事項を学ぶ
- 第 7 回 授業技法ー授業を進める上で必要となるコミュニケーション技術
授業におけるコミュニケーションのあり方について学ぶ
- 第 8 回 効果的な教材デザインーデジタルコンテンツの可能性・【演習】教材製作
授業をすすめる上で必要となる教材作成の方法、考え方について学ぶ
- 第 9 回 授業をどのように評価するか
授業を評価する意味、評価の方法について学ぶ
- 第 10 回 学校はどのように変わっていくかー総合的な学習の時間の本質
総合的な学習の時間について、その導入の意味、ねらいを学ぶ
- 第 11 回 ICTを利用した教育方法改善 - 反転授業、遠隔教育等 -
ICTを活用した授業の方法や、効果について学ぶ
- 第 12 回 学校における教育活動と著作権
教員として身につけておくべき著作権知識を学ぶ
- 第 13 回 子どもに伝えたい情報モラル・セキュリティ
情報モラル、セキュリティの指導について学ぶ

第 14 回 教えるということを改めて考え直す：学びのための学習環境
これまでの学習をもとに、学びのための学習環境のあり方を考える

第 15 回 【総合実習】これからの教員に求められる能力とは
これまでの学習をまとめる

第 16 回 総合評価
本授業での学びを評価する

〔成績評価の方法〕

中間課題・演習作品（30%）、最終試験（70%）で評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

【教科書】

新しい時代の教育方法「改訂版」

出版社名 有斐閣アルマ

出版年月 2019年01月

ISBNコード 9784641221253

【参考書】

教材設計マニュアル 鈴木克明著 北大路書房 2200円＋税

視聴覚メディアと教育方法 井上智義編 北大路書房 2400円＋税

教育の方法と技術 平田啓一・町田隆哉編 教育出版 2260円＋税

そのほか、必要に応じて指示します。

〔その他履修上の注意事項〕

e-Learningを利用します。スマートフォンを準備しておいてください。持っていない場合は、事前にメールで連絡してください。

〔オフィスアワーの設定〕

e-mailで連絡してください。

tkuroda@edu.u-toyama.ac.jp

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

〔その他〕

〔資格関係〕

〔キーワード〕

生徒・進路指導論 (Student and Career Guidance)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年

2単位 前期

水曜 5限

澤田 忠幸

〔目的〕

生徒指導・進路指導の目標や学校組織の中での体制、各教師が果たすべき生徒指導・進路指導の役割や注意点について理解する。そのうえで、生徒の学業不振、不登校、いじめ、非行、問題行動、進路選択、発達障害などの問題について、生徒指導や進路指導、キャリア形成支援に必要な理解を得ることを目指す。

〔到達目標〕

1. 生徒指導に必要な基礎知識（意義や原理、生徒指導の体制）について説明することができる。
2. 障がいのある児童生徒への支援のあり方を含め、個別の課題を抱える児童生徒の指導上の課題や対応の視点について理解し、自身の考えを述べるができる。
3. 進路指導について、キャリア形成の支援という観点から、ガイダンスおよびカウンセリングの視点を踏まえた取り組み方について説明することができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

定期試験は実施しない

〔授業計画〕

- 第 1 回 生徒指導・進路指導とは
- 第 2 回 生徒指導の体制と連携 (1)
校務分掌と校内連携, 生徒指導計画の策定
- 第 3 回 生徒指導の体制と連携 (2)
地域や関係機関との連携
- 第 4 回 生徒指導の体制と連携 (3)
生徒指導と法制度 (校則, 懲戒と体罰, 出席停止など)
- 第 5 回 生徒指導の進め方 (教育課程・学級運営と生徒指導) と危機管理
- 第 6 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (1)
いじめとネットトラブル
- 第 7 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (2)
不登校・中途退学
- 第 8 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (3)
非行と問題行動
- 第 9 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (4)
児童虐待・性の課題, 命の教育と自殺の防止
- 第 10 回 個別の課題を抱える児童・生徒への指導 (5)
特別な支援が必要な生徒への対応
- 第 11 回 教育課程における進路指導・キャリア教育
- 第 12 回 現代社会におけるキャリア教育: 働くこと, 学ぶこと, 生きること
- 第 13 回 キャリア教育の授業デザイン: 中学・高校編
- 第 14 回 生徒のキャリア形成を支援する理論と方法
- 第 15 回 まとめ
(児童生徒の人格形成と自己実現をめざした生徒指導・進路指導を考える)

〔成績評価の方法〕

授業内でのワークシート兼ミニレポート (15 枚) 60%, 期末試験(ミニ学修ポートフォリオ)40%。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

(教 材) 教科書は使用しない。資料は適宜配付する。

(参考書)

文部科学省 (平成22 年3 月) 「生徒指導提要」, 教育図書
文部科学省 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 編 (2016)
「変わる! キャリア教育: 小・中・高等学校までの一貫した推進のために」, ミネルヴァ書房
本多友巳・内田利 編著 (2016) 「初めて学ぶ生徒指導・教育相談」, ミネルヴァ書房

下村英雄 (2009) 「キャリア教育の心理学」, 東海教育研究所

その他、授業中随時、参考書を紹介する。

〔その他履修上の注意事項〕

欠席せずに全授業を受講してほしい。積極的にグループワークに参加すること。

〔オフィスアワーの設定〕

授業後および研究室で随時受け付ける。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目 (本授業は教員免許法において道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目として設定された「生徒指導の理論及び方法」「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」に対応する)。

〔その他〕

定期試験は実施しない

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

教育相談 (カウンセリング含む) (Educational Consultation and Counseling)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年 後期
2単位 水曜 4限
澤田 忠幸 武山 雅志

〔目的〕

青年期の中学生・高校生が学校生活・学業・人間関係・自己・家族などの面で、どのような悩みや不適応の問題に直面するかを理解し、どのような教育的支援が可能であるかを理解する。その際、教育相談を進める際に必要なカウンセリングに関する基礎的知識、心理相談や心理療法についての基礎的理解を得ることを目指す。その上で、教育相談の行う際に必要なアセスメント、コミュニケーション・スキル、関係機関との連携そして教育相談を行う側のメンタルヘルスについて学ぶ。

〔到達目標〕

1. 学校における教育相談の意義と理論、相談内容の種類について説明することができる。
2. 教育相談を進める際に必要な臨床心理学的な基本的事項について説明することができる。
3. 教育相談 (学習相談・進路相談を含む) の具体的な進め方やそのポイントを理解し、関係部署とどのように連携して相談活動を行えばよいかについて理解する。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第 1 回 生徒指導と教育相談
: 学校における教育相談の位置づけと教師に求められる役割 (担当: 澤田忠幸)
- 第 2 回 思春期・青年期の心理と発達 (1)
「大人」への移行期 (担当: 澤田忠幸)
- 第 3 回 思春期・青年期の心理と発達 (2)

アイデンティティの模索と友人関係 (担当: 澤田忠幸)

- 第 4 回 心理検査とその利用
: 心理検査の種類と利用する際の注意点 (担当: 澤田忠幸)
- 第 5 回 教育相談と教師のメンタルヘルス
: ストレス対処, アンガーマネジメント (担当: 澤田忠幸)
- 第 6 回 家庭・地域・関係機関との連携
(担当: 澤田忠幸)
- 第 7 回 学習指導, 進路指導と教育相談【演習】
(担当: 澤田忠幸)
- 第 8 回 中間試験
: レポート
- 第 9 回 教育相談におけるカウンセリングマインド
(担当: 武山雅志)
- 第 10 回 教育相談におけるカウンセリングの理論 (1)
傾聴, 共感的理解の考え方 (担当: 武山雅志)
- 第 11 回 教育相談におけるカウンセリングの技法 (1)
傾聴技法【演習】 (担当: 武山雅志)
- 第 12 回 教育相談におけるカウンセリングの理論 (2)
積極技法の考え方, 自己開示など (担当: 武山雅志)
- 第 13 回 教育相談におけるカウンセリングの技法 (2)
積極技法【演習】 (担当: 武山雅志)
- 第 14 回 事例に基づく教育相談の進め方 (1)
いじめ【演習】 (担当: 武山雅志)
- 第 15 回 事例に基づく教育相談の進め方 (2)
不登校【演習】 (担当: 武山雅志)
- 第 16 回 事例に基づく教育相談の進め方 (3)
虐待ほか【演習】 (担当: 武山雅志)
- 第 17 回 定期試験

〔成績評価の方法〕

授業内でのワークシート兼ミニレポート (15 枚) 40%、中間レポート 30%、学期末試験 30%を総合して評価する。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

(教 材) 教科書は使用しない。資料は適宜配付する。

(参考書)

文部科学省 (平成22 年3 月)「生徒指導提要」(第3 章), 教育図書

春日井敏之・伊藤美奈子 編 (2011)「よくわかる教育相談」ミネルヴァ書房

森田健宏・吉田佐治子 編 (2018)「教育相談」ミネルヴァ書房
向後礼子・山本智子 (2014)「ロールプレイで学ぶ 教育相談
ワークブック: 子どもの育ちを支える」ミネルヴァ書房

安藤俊介 (2016)「アンガ- マネジメント入門」朝日新聞社出版
平木典子 (2012)「アサーション入門: 自分も相手も大切に
する自己表現法」講談社現代新書2143

その他、授業中随時、参考図書を紹介する。

〔その他履修上の注意事項〕

- ・ 欠席せずに全ての授業を受講してほしい
- ・ 授業ではグループワークを取り入れるので、積極的に参加すること

〔オフィスアワーの設定〕

授業の前後および研究室で随時受け付ける

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目 (本授業は教員免許法において道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目として設定された「教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法」に対応する)。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

教育実習 (中学校) (Teaching Practicum (Junior High School)) (2018 年度以前入学者) 2018年度以前

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
3年
5単位 前期
火曜 4限
澤田 忠幸 石倉 瑞恵

〔目的〕

学校教育現場での実習に臨み、大学の教養課程、教職課程、専門課程での学びを実践知へと高める。教壇での学習指導だけでなく、生徒指導、学級経営、学校経営などを実際に体験して、授業を行う上で必要な知識や技能、指導力、生徒理解力、学校・教育課程経営力などを向上させる。さらに、自己の教育実践に対して自己評価を行い、自分の課題を見出してその解決方法について考え、自己研修力を高める。

〔到達目標〕

1. 教師の発する言動の影響力について熟慮した上で積極的に生徒と接し、生徒理解に努めることができる。
2. 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
3. 生徒の反応等、ありうる自体を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行ったのちに教壇実習に臨む。
4. 教壇実習の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
5. 他者の授業を参観して、その全体を把握し、自己の教育実践を振り返る上での手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容 (概要)〕

中学で最低3 週間の実習を行う。実習校実習の前後には、大学で4 限5 限連続の事前指導と事後指導を行う。

〔授業計画〕

- 第1回目〈事前指導〉オリエンテーション
- 第2回目〈事前指導〉学習指導案作成の手順
- 第3回目〈事前指導〉教育実習での学びと注意事項
- 第4回目〈事前指導〉「教育実習の心得」講話
- 第5回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換

第6回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第7回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第8回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第9回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第10回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第11回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第12回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第13回目〈事前指導〉模擬授業の実施と参観、意見交換
第14回目〈教育実習（3週間）〉各々の実習校の実習計画に基づく

第15回目〈事後指導〉教育実習報告と意見交換

第16回目〈事後指導〉教育実習報告と意見交換

〔成績評価の方法〕

事前事後指導での模擬授業への取り組み熱意 20%
事前事後指導での上記以外の活動への取り組み熱意（小レポート、意見交換、実習報告、実習報告書） 20%
実習校による教育実習評価 60%

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書） 適宜資料を配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

教育実習を履修するためには、教育実習に必要な要件を満たしていること、実習の約1年前に中学校に実習依頼をして内諾を得て、大学から中学校への正式依頼がすんでいることが必要である。

〔オフィスアワーの設定〕

模擬授業用の準備（指導案の作成など）に関わる打ち合わせなど随時行う。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育実践に関する科目として設定された「教育実習（中）」に対応する）。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

教育実習（高校）(Teaching Practicum (High School)) (2018年度以前入学者) 2018年度以前

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
3年 前期
3単位 火曜 4限
石倉 瑞恵 澤田 忠幸

〔目的〕

学校教育現場での実習に臨み、大学の教養課程、教職課程、専門課程での学びを実践知へと高める。教壇での学習指導だけでなく、生徒指導、学級経営、学校経営などを実際に体験して、授業を行う上で必要な知識や技能、指導力、生徒理解力、学校・教育課程経営力などを向上させる。さらに、自己の教育実践に対して自己評価を行い、自分の課題を見出してその解決方法について考え、自己研修力を高める。

〔到達目標〕

- 1 教師の発する言動の影響力について熟慮した上で積極的に生徒と接し、生徒理解に努めることができる。
- 2 生徒理解を踏まえて学習指導のプランを立て、そのプランを学習指導案として明確にまとめることができる。
- 3 生徒の反応等、起こりうる事態を予測して十分に授業の準備とシミュレーションを行ったのちに教壇実習に臨む。
- 4 教壇実習の後に自己評価を行い、授業改善に向けて更なる自己研修に取り組む。
- 5 他者の授業を参観して、自己の教育実践を振り返る上での手がかりとすることができる。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

高校で最低2週間の実習を行う。実習校での実習の前後には、事前指導と事後指導を行う。

〈事前指導〉

- 1 オリエンテーション
 - 2 学習指導案作成の手順
 - 3 教育実習での学びと注意事項
 - 4 「教育実習の心得」講和
- 5-13 模擬授業の実施と参観、意見交換

〈教育実習（2週間）〉

各々の実習校の実習計画に基づく

〈事後指導〉

14-15 教育実習報告と意見交換

〔成績評価の方法〕

事前事後指導での模擬授業への取り組み熱意 20%
事前事後指導での上記以外の活動への取り組み熱意（小レポート、意見交換、実習報告、実習報告書） 20%
実習校による教育実習評価 60%
教職課程の規範として欠席は認められない。

〔予習・復習に関する指示〕

①事前事後指導における予習・復習

模擬授業を担当する場合は、1週間より前に、学習指導案を作成し、個別に指導を受けにくる必要がある。学習指導案は、指導を通してよりよいものに作り上げていくため、1週間以上の指導期間が必要である。また、模擬授業を実施する前に、各自が模擬授業の予行演習をする必要がある。さらに、必要に応じて、学習指導案の他に、板書計画、教材等の準備をするとよい。

模擬授業を行ったら、意見交換において指摘、助言されたことを振り返り、次の模擬授業において改善できるよう、さらなる教材研究、教育方法の改善を行い、課題意識をもって模擬授業の予行演習をする。

②教育実習における予習・復習

教育実習に行く前に「教育実習ノート」の注意事項を熟読し、実習校や担当科目についての学習をしておく。教育実習が終了したら、「教育実習ノート」の指示に従い、実習報告書（実習内容、学んだこと、課題と感じたこと等を含む）を作成して提出する。

〔教科書・参考書〕

適宜、資料を配布する。

〔その他履修上の注意事項〕

教育実習を履修するためには、教育実習に必要な要件を満たしていること、実習の約1年前に高校に実習依頼をして内諾を得て、大学から高校への正式依頼が済んでいることが必要である。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教職関連科目すべての知識、実践を応用、統合させる最終段階の科目である。したがって、教職関連科目は4年次後期の「教職実践演習」を除き、すべてを履修してあることが望ましい。

〔その他〕

〔資格関係〕

教職課程関連科目（履修の手引き別表参照）

〔キーワード〕

実践知、学習指導、生徒理解、学校・教育課程経営、自己評価、自己研修力

教職実践演習（Seminar for Teaching Practice）

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
4年
2単位 後期
金曜1限
澤田 忠幸 石倉 瑞恵

〔目的〕

これまでに教職・教科科目で得た学習知と教育実習で得た実践知との統合を図り、使命感・責任感に裏打ちされた中学校・高校教員としての資質を学生自らが分析・確認し、総括的に高めることを目的とする。

〔到達目標〕

- 1 教育に対する使命感や愛情、困難に立ち向かう強い意志をもち、自己の職責を果たすことができる。
- 2 教員としての自覚に基づき目的や状況に応じた適切な言動を取ることができる。また、組織の一員としての自覚をもち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。
- 3 生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。また、生徒の発達や心身の状況に応じて抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。
- 4 教科指導の基本的事項、及び新しい指導法について自己研修を行う意欲と姿勢を培う。

〔授業計画・内容（概要）〕

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 模擬職員会議を通して学ぶ同僚との協働
- 第3回 模擬職員会議を通して学ぶ同僚との協働
- 第4回 理科教材開発
「生徒の関心を引き出す身近な科学」（グループ・ワーク）

第5回 理科教材開発

「生徒の関心を引き出す身近な科学」（グループ・ワーク）

第6回 模擬学校経営

：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流

第7回 模擬学校経営

：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流

第8回 模擬学校経営

：参加型行事の運営と生徒・保護者との交流

第9回 ケース・スタディ

「教育方法の今日的課題」（高校での参観授業と議論を含む）

第10回 ケース・スタディ

「教育方法の今日的課題」（高校での参観授業と議論を含む）

第11回 特別支援教育についての理解

（特別支援学校での参観授業を含む）

第12回 特別支援教育についての理解

（特別支援学校での参観授業を含む）

第13回 自己研修

：教員による講話「教師のライフコース」と議論

第14回 自己研修

：教員による講話「教師のライフコース」と議論

第15回 学びの振り返り

〔成績評価の方法〕

模擬職員会議やグループワーク、模擬学校経営、参観と議論等への取り組みにおいて、到達目標の1/4を達成しようとする意欲と努力が見られるか（50%）、また、到達目標に向けての成長が見られるか（50%）。

〔予習・復習に関する指示〕

〔教科書・参考書〕

（教科書）適宜、資料を配布する。

（参考書）

西岡加名恵 他『教職実践演習ワークブック』ミネルヴァ書房

〔その他履修上の注意事項〕

教職課程の総括的科目である。この授業を通して教員免許授与が適切であるか否かの最終的判断が下されると心得よ。

〔オフィスアワーの設定〕

随時、研究室にて。

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員の免許状取得のための必修科目（本授業は教員免許法において教育実践に関する科目として設定された「教職実践演習」に対応する）。

〔その他〕

〔資格関係〕

教員の免許状取得のための必修科目

〔キーワード〕

職業指導 (Vocational Guidance)

生物資源環境学部 > 教職科目 > 2018年度入学者以前
2年
2単位 後期
水曜2限
菱田 陽子

〔目的〕

生徒に対して職業に就くことの意義等について指導するために必要な、基礎知識・技能を理解・習得し、その指導方法を学ぶ。それと共に、交流分析による自己分析を行い、自己を知り、職業に就くことの意義、職業観、自らの人生設計、生き甲斐感等について考えることを内容とする。

〔到達目標〕

- 1) 「職業指導」の概念を充分理解し、生徒指導の実践に役立てることを目標とする。
- 2) 「職業指導」は具体的職業のみに関わる科目ではなく、働くこと、生きること、人生全般に関わっていくことを内容とする科目であり、社会心理学、臨床心理学、カウンセリング理論の応用まで必要とされることを理解し、それらの内容を実践の場で生かせるよう身に着けることを目標とする。
- 3) 具体的な職業、就職に関わると同時に、指導相手は個人差があることを念頭に置いて指導できるよう、自分自身の知識と心の学びを継続できる自立・自律性を身に着け、成熟した人格に向かえる心性を育てることを目標とする。

〔授業計画・内容(概要)〕

職業指導は、生き方、働き方、社会性等、あらゆる側面と関連がある。まず、自己を知り、生徒の内面と対する必要があるため、最初に自己分析を学び、以下に示す内容を身に着ける。授業形態は、各自、担当部分を自分で選び、資料作成と発表の形式をとる。期末の試験は行わない。各授業の最後に小レポートを書くことにより、自分の感想、考えをまとめ、授業効果の定着を図る。

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、現代学校教育の構造と機能
1. 学校教育の意義、学校教育の教育構造、2. 教育課程の類型、教育課程の「領域」と「機能」の概念、3. 教育課程の理念的方向、教育活性化の環境・条件の整備、等について学ぶ。
- 第 2 回 自己を知る：交流分析 1.
生徒の相談に乗り、指導する上で、まず、自己を知っていることが望まれる。ここでは、エリック・バーンの交流分析理論に基づき、質問紙による自己分析を試みる。
- 第 3 回 自己を知る：交流分析 2
前回に続き、交流分析理論を学び、変化する自己の内面を分析する技法を身につける。このことにより、葛藤の少ない、自分らしい交流をもとに生徒の指導に当たることが望まれる。
- 第 4 回 生徒指導
1. 戦前における生徒指導、戦後における生徒指導、2. 生徒指導の教育的意義、生徒指導の目的

と領域、3. 教育課程と生徒指導の関連、学習指導要領に見る生徒指導の位置づけ、生徒指導と教育課程にもとづく教育活動との関連、4. 発達の理論、集団指導に関する理論、等について学ぶ。

- 第 5 回 生徒指導の領域と具体的方法
1. 生徒指導の療育、2. 生徒指導と進路指導の関係、3. 児童生徒理解の方法・技術、4. 集団指導の方法・技術、等について学ぶ。
- 第 6 回 生徒指導の実践的展開 1
1. 生徒指導の役割と校内指導体制、生徒指導の組織、生徒指導部に関わる人びと、望ましい体制づくり、2. 教務部との連携、進路指導部との連携、保健厚生部との連携、各運営協議会・各委員会、等について学ぶ。
- 第 7 回 生徒指導の実践的展開 2
前回に続き、3. 生徒指導目的の設定、生徒指導計画、実施の推進、4. 教育評価の仕組み、生徒指導の評価、評価の活用、等について学ぶ。
- 第 8 回 生徒指導の教育課題と解決 1
1. 適応・不適応の概念、問題行動の概念、2. 非行・性非行・校内暴力・いじめ、不登校・心身症・神経症、等について学ぶ。
- 第 9 回 生徒指導の教育課題と解決 2
前回に続き、3. 特別支援教育、学校外期間との協力・連携、等について学ぶ。
- 第 10 回 進路指導の歴史と理念
1. アメリカにおける歴史的展開、日本における歴史的展開、2. 進路シドの定義と目的、進路指導の意義と機能、3. 教育課程の変遷と進路指導、今日の教育課程と進路指導、等について学ぶ。
- 第 11 回 進路指導の基礎理論と方法 1
1. 本章で取り上げる理論の概念、2. 日米の進路指導の発祥に共通する児童保護の理念、パーソンの職業選択の理論、理論を学校教育で実に移したデービス、特性・因子論とその後、等を学ぶ。
- 第 12 回 進路指導の基礎理論と方法 2
前回に続き、3. ホランダの職業的パーソナリティ理論など、シャインのキャリア・アンカー、4. スーパーの職業的発達理論、ガイスパースによる生涯キャリア発達論、ジェブセンのストーリーとしてのキャリア、5. バンデューラの自己効力理論、クルンボルツの偶発性の理論、等を学ぶ。
- 第 13 回 進路指導の実践的展開 1
1. 学校進路指導の校内組織と管理運営、進路指導の計画と実施、2. 進路指導における集団指導と個人指導、進路指導における集団指導、
- 第 14 回 進路指導の実践的展開 2
3. 個人ガイダンス、個別カウンセリング、4. 進路指導の評価の特質、進路指導の評価の対象と内容、進路指導の評価の手順と方法、等を学ぶ。
- 第 15 回 進路指導の教育課題と解決

1. 学校から社会への移行をめぐる問題, 子どもたちの生活・意識の問題, キャリア教育の提唱と推進, キャリア教育の意義, 2. キャリア発達を促すために育成することが期待される能力や態度: 基礎的・汎用的能力, キャリア教育充実のための方策, キャリア教育の進め方, 3. キャリア教育と学校外活動, 等について学ぶ。

〔成績評価の方法〕

担当箇所の発表内容、発表態度 (60%)、各授業後のコメント (10%)、期末のレポート (20%)、受講状況 (10%)

〔予習・復習に関する指示〕

発表の担当箇所は、最初に決める。各自で希望の箇所を決め、決定後は、その箇所に関する教科書の内容のみではなく、ネットや関連書物で関連情報を集め、資料作成を開始していただきたい。発表回数は平均2回なので、充実した発表準備をすることで、充実した発表を楽しんでいただきたい。復習に関しては、必要に応じて、疑問点を調べる程度である。

〔教科書・参考書〕

(教科書)「改訂 生徒指導・教育相談・進路指導」仙崎武・野々村新・渡辺三枝子・菊池武剋 編者、松井賢二、榎本和生、植松紀子、下司昌一、三川俊樹、橋本幸晴、藤田晃之、三村隆男、池場望 共著 田研出版

(教材)「新版 TEG III」東京大学医学部心療内科TEG 研究会編、金子書房

〔その他履修上の注意事項〕

〔オフィスアワーの設定〕

- ① 授業後に受け付ける。
- ② アポイントメントにより対応 (メール: yhishida@gmail.com)

〔カリキュラムの中の位置づけ〕

教員免許取得に関連する科目。特に、農業高校の教員免許取得と関連している。卒業後の職業選択、進路選択指導を目的とする内容である。そのための相談指導に必要な知識を学ぶ。具体的には、カウンセリング関連の内容も含み、心理学の要素も内容としている。

〔その他〕

実務経験に関して: 国内企業の社長秘書として勤務。アメリカの伊藤忠ニューヨーク勤務。国内・海外の勤務を通して、働くことに関する、人間関係、社会との関わり、自己実現を含む生き方について、自ら得た知識、知恵を講義の内容に含めていく。

〔資格関係〕

農業高校の教員免許取得に関する選択科目。

〔キーワード〕

キャリア, インターンシップ, 職業選択, 自己実現, 自己啓発, 適応・不適応